

石油連盟シンポジウム
『学生×石油連盟 エネルギーの未来を語る』

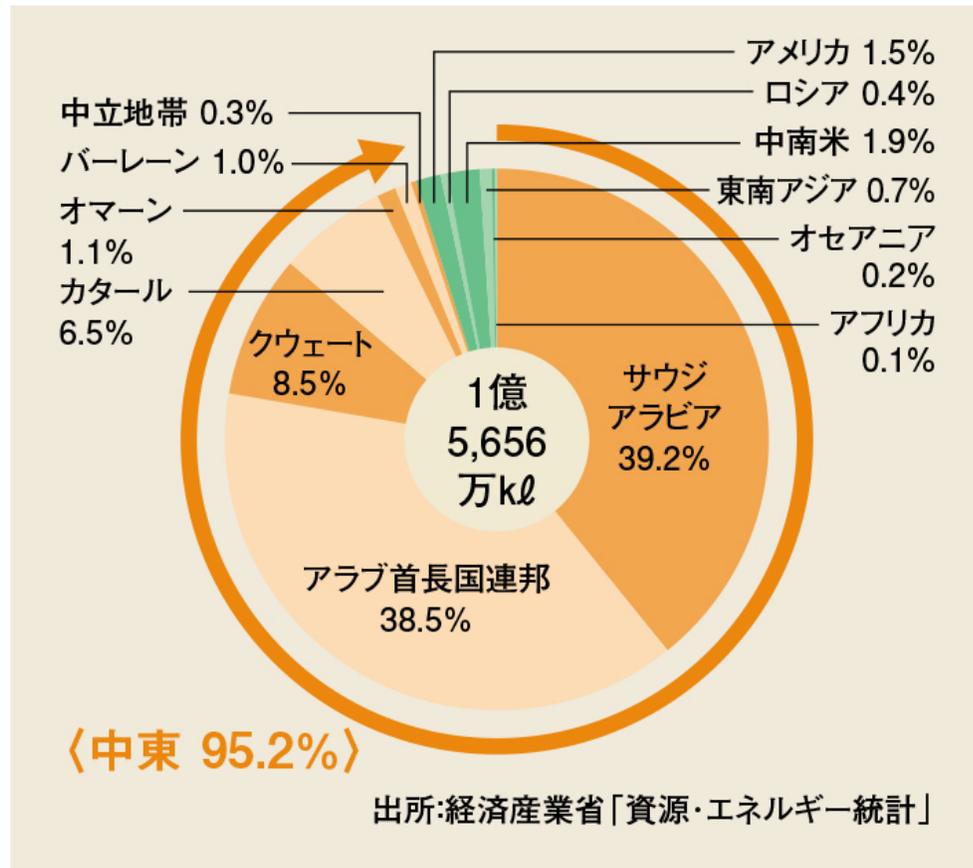
2024年3月18日

石油連盟
fuel+

1-1. 原油の調達

- ① 日本では原油がほとんど採れないため、ほぼ全量を(99.7%)を輸入しています。
- ② そのうち9割以上を中東から輸入しています。(中東依存度 95.2%)
- ③ 中東から日本までの航路は約1.2万kmあり、約3週間かけての航海となります。

日本の国別原油輸入量(2022年度)



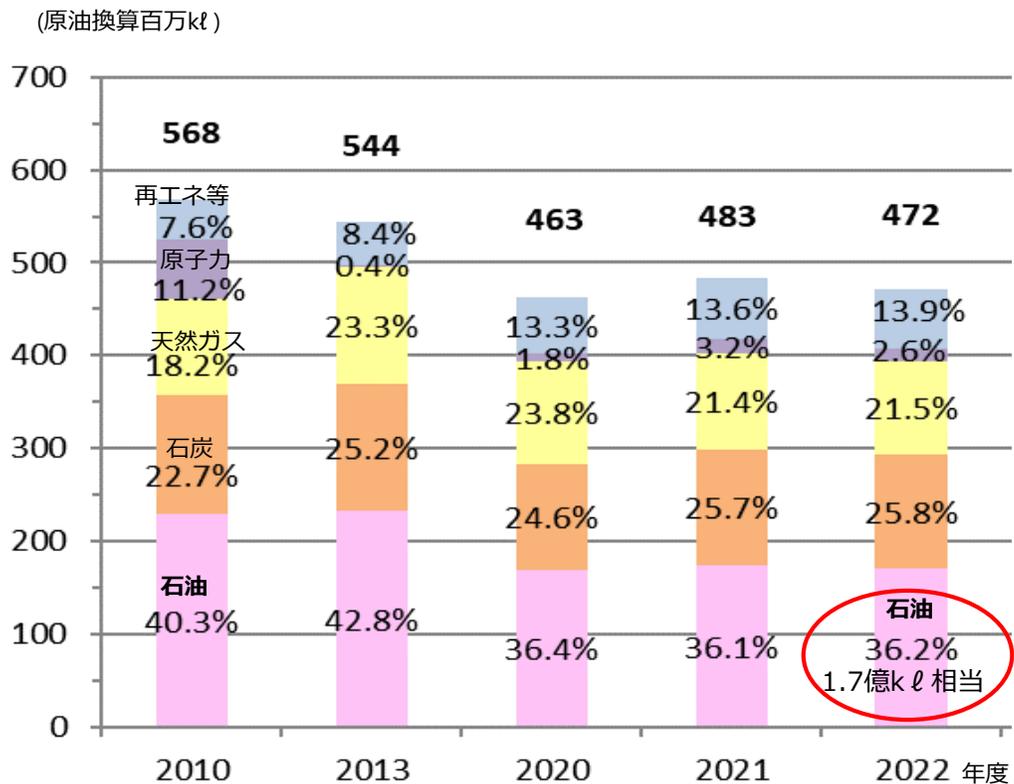
中東からのオイルロード



1-2. 日本における石油の位置付け

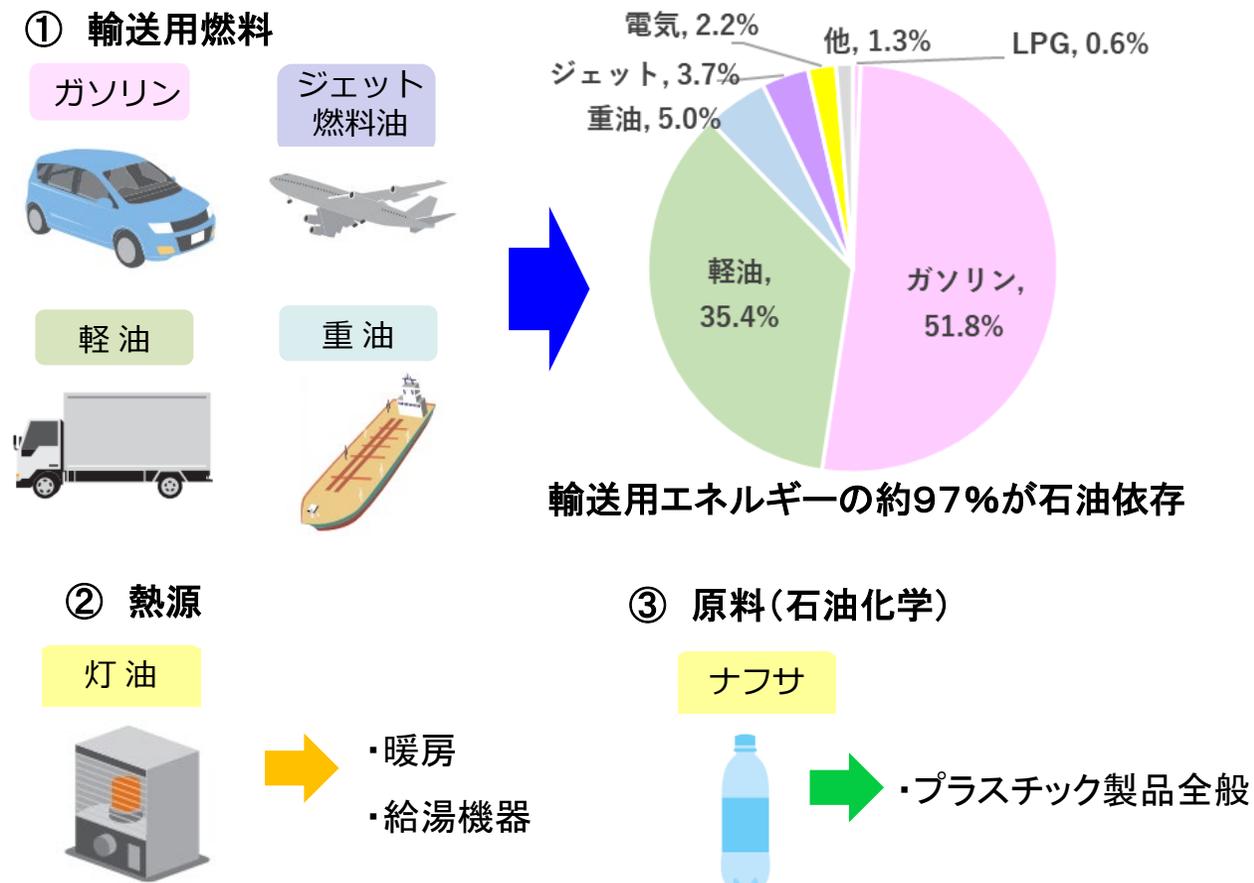
- ① 日本国内に供給される一次エネルギーのうち、石油は1/3以上を占めています。
- ② エネルギーは様々な分野で消費されていますが、中でも輸送用燃料(自動車・船舶・飛行機・鉄道など)の約97%を石油が占めています。

一次エネルギー供給(国内供給)の推移



(出所) 資源エネルギー庁 総合エネルギー統計 (2023年11月)

石油製品の種類と主な用途

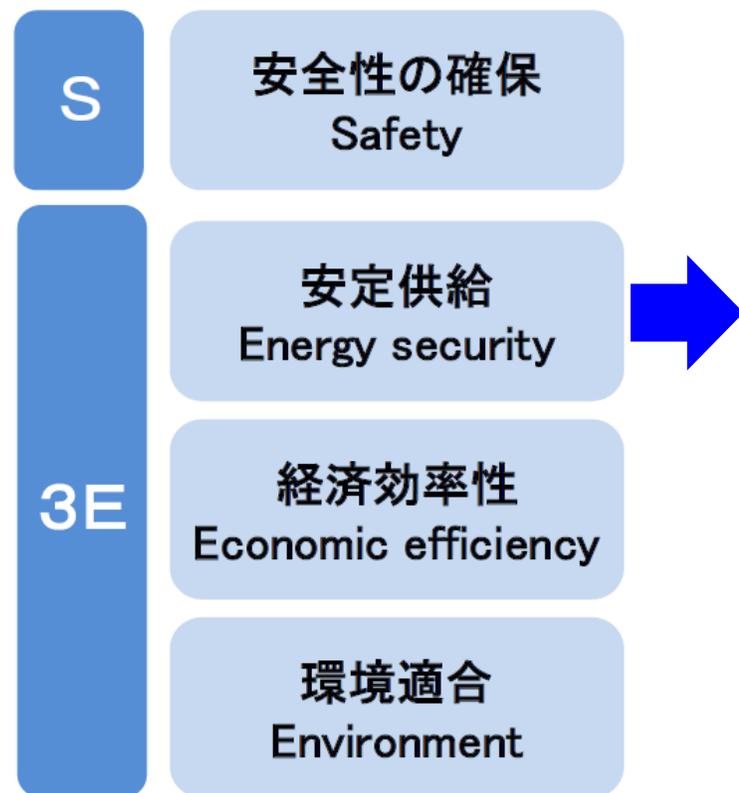


1-3. エネルギー政策の基本方針 S+3E

- ① エネルギー資源に乏しいわが国のエネルギー政策は、「S+3E」(※)の同時達成が基本です。
(※ 安全性の確保を前提とした、安定供給、経済効率性、環境適合)
- ② 石油は、政府のエネルギー基本計画において、
 - ・可搬性・貯蔵の容易性・機動性があり、災害直後から被災地へ供給できるエネルギー供給の「最後の砦」
 - ・平時のみならず緊急時にも貢献する、国民生活・経済活動に不可欠なエネルギー源 と位置付けられています。

エネルギー政策の基本「S+3E」

緊急時に備えた石油出荷基地における強靱化対策の例



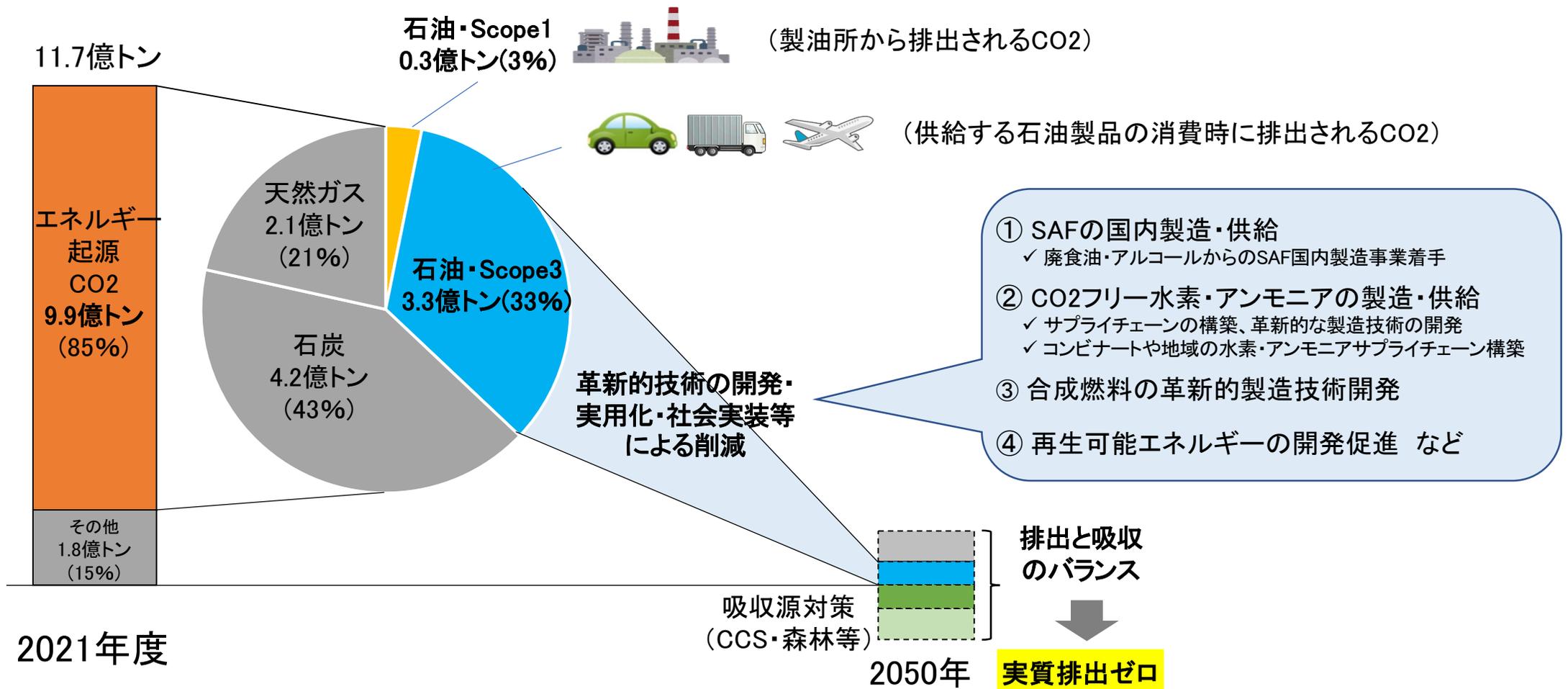
ドラム缶出荷設備



多数のドラム缶による出荷要請
(東日本大震災時)

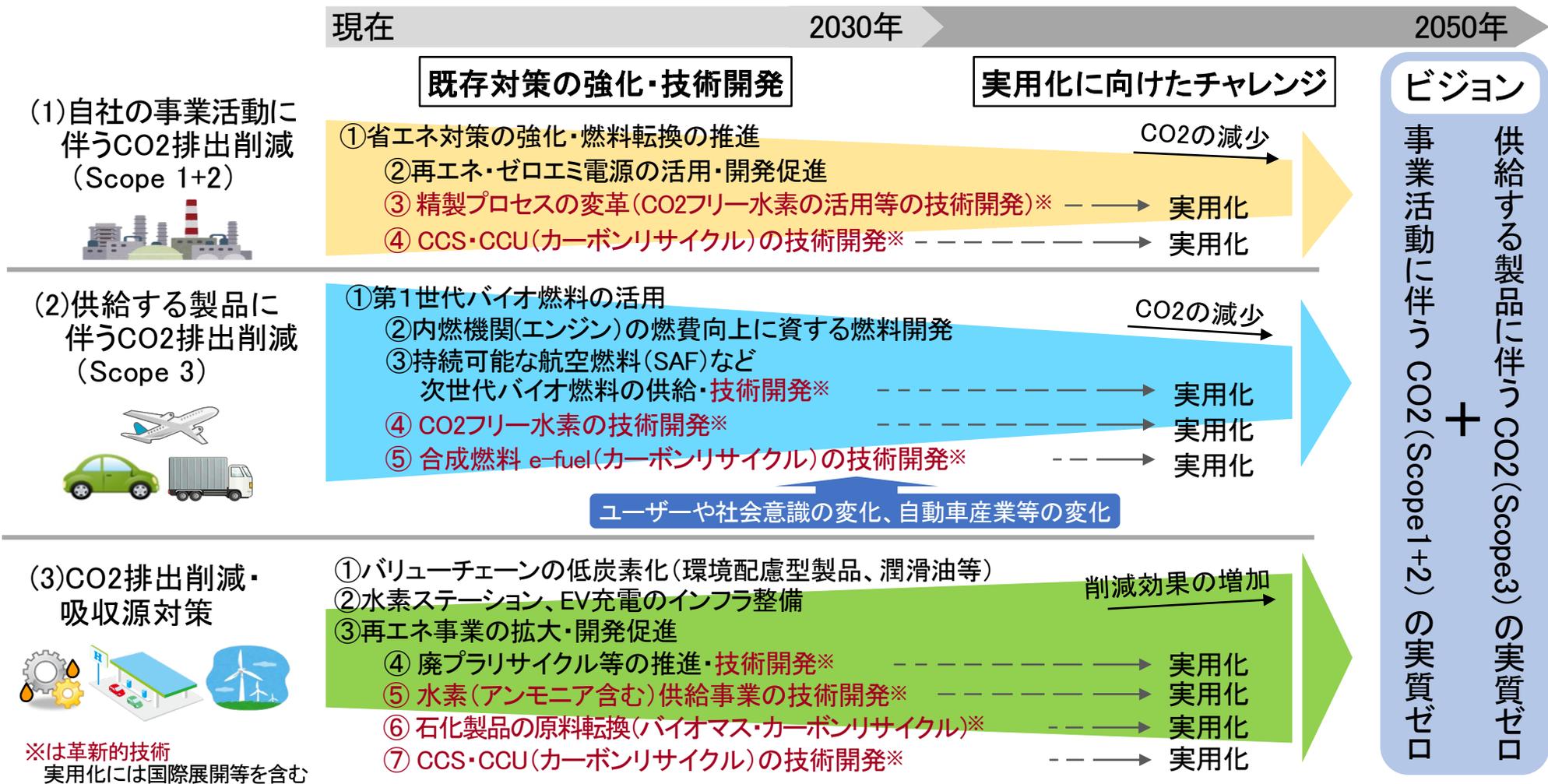
2-1. カーボンニュートラルに向けた挑戦のイメージ

- ① 日本でエネルギー消費によるCO2排出量は約10億トン、そのうち石油の消費によるものが約1/3あります。
- ② 石油のCO2排出のうち、製油所からの排出(Scope1)は約3千万トンで、大部分は石油製品の消費時などにおける排出(Scope3)であり、この部分の削減が重要です。



3-1. 石油業界のカーボンニュートラルに向けたビジョン（目指す姿）

石油連盟は、2020年10月に政府が発表したカーボンニュートラル宣言を受け、2021年3月に「石油業界のカーボンニュートラルに向けたビジョン」を策定しました。
 (2022年12月、革新的技術開発の取り組みの具体化などを踏まえ、ビジョンを改定)



※は革新的技術
実用化には国際展開等を含む

石油業界は、2050年に向けて、SAF、CO2フリー水素、アンモニア、合成燃料（e-fuel）などのカーボンニュートラル燃料の革新的技術開発・実用化や、再生可能エネルギーの開発促進等により、供給する製品に伴うCO2排出（Scope3）の実質ゼロにチャレンジしていきます。

